

### 1 自己評価および外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170600486		
法人名	有限会社 百々		
事業所名	グループホーム百々(1F)		
所在地	岐阜県羽島郡岐南町上印食2丁目32		
自己評価作成日	平成21年5月30日	評価結果市町村受理日	平成21年7月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170600486&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170600486&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成21年6月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者、家族、職員、合わせて大きな家族として、共に寄り添い支えあいながら、より一層あたたかなケアが提供できるよう、努めていきたいと思っております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは幹線道路から一步入った住宅地にあり、玄関先は門が無く、開放的で庭に草花も多く、訪れやすい雰囲気となっている。「人の暮らす姿は家庭での生活にあり、家は地域の中にある」とし、日々の暮らしの中で個々の利用者の思いを大切に、「家庭的な雰囲気の中で安らぐ毎日」を支援するケアの実践に取り組んでいる。ホーム代表の畑や地域の人からの野菜の差し入れで食卓が賑わっている。職員も利用者と同じものを同じ食卓で摂る支援が継続されている。外出時は車椅子を利用する人が多くなったが、地域での散歩が継続できるように取り組んでいる。家族との泊旅行もできるだけ長く継続できるよう今後も取り組んでいく姿勢がある。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(1F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な雰囲気の中で心安らぐ毎日」という理念の下、利用者も職員も居心地のよい、地域の方も馴染みやすいホームを目指し、日々取り組んでいる。	家庭的とは、利用者にとっても、職員にとっても共に居心地の良い環境と考え、安らぎがえられるよう、理念にあげ、日常の中で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は自治会に加入し、できる範囲での参加を行っている。地域住民とも、挨拶や談話、野菜や花の差し入れをいただいたり、自然な交流を図っている。	管理者、職員は散歩時には挨拶したり、地域のスーパーへの買い物、子供達の訪問を働きかける等、積極的に取り組んでいる。	さらには、ホームは地域の子供110番を引き受けたり、地域における介護の情報提供や相談窓口としての活用等にも取り組まれない。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、地域の独居の方への気軽なホームへの訪問、交流を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス状況の報告や情報交換で留まることが多いため、改善課題を明確にし話し合うことでサービスの向上に活かせる会議を今後の課題とする。また、出席者の検討、会議内容の共有も図っていきたい。	2ヶ月に1回、利用者家族、地域の役員や役場職員がメンバーとして平日に開催している。事業報告やヒヤリハット、利用者の日常の暮らし振りを報告し、夏祭りやクリスマス会など地域への行事案内も行っている。	運営推進会議の開催日は平日であるため、出席者は限定されている。できる限り多くのメンバーが出席できるよう日程を調整されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の利用者の状況を報告したり、相談に乗って頂いたり、また町主催の勉強会には積極的に参加し、市町村との連携、協力関係に努めている。	ホームの利用状況の報告や利用の権利擁護について相談等連携を密にしている。また、年に2回ある町主催の福祉事業者向けの研修会に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行っているが、職員よりもう少し分かりやすくしてほしい、定期的に勉強会を行ってほしいと意見があり、今後の取り組み課題としたい。	「身体拘束しないケア」については、管理者が外部研修を受け、身体拘束することの弊害等を伝達し、尊厳ある言葉使いを心がけており、ホーム内や玄関は開放的である。今年度は希望により3名の職員の外部研修の受講が決まっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行っているが、今後も定期的に行い理解、意識を深めたい。ホーム内では言葉使いも虐待につながることに重点を置き、職員全員で責任ある言動に取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会には出席しているも、職員全員の共有まではできておらず、今後の課題として取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ありのままのホームを見て頂き、説明、理解、納得の上で承諾を頂いている。契約後も不安や疑問点、要望などには説明、柔軟な対応に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置するとともに、利用者、家族との距離を置かず、気兼ねなく話せる関係作りを努めている。また、出された意見に職員で話し合い、前向きに改善に向けて取り組み、結果報告を行っている。	家族には、できるだけ面会を多くしてもらおうよう依頼しており、面会回数は比較的多く、少ない人でも月に1回はある。来訪時には日常の報告を行い、家族からの相談を聞いている。話しやすい雰囲気になるようかける言葉にも配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今回の自己評価で職員よりもっと話をする機会を設けてほしいという意見があり、目標達成計画にあげ、改善に向けて前向きに取り組みたい。	管理者は、自己評価票の評価項目を職員が理解しやすいように独自に再作成し、全職員一人ひとりで取り組んだ。この取り組みにより、職員から意見や提案が活発にあった。課題を検討し順次取り組んでいく姿勢がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得は奨励しており、働きやすい職場環境に努め、希望休日にも配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	専門的な知識を深めるために、順次研修に参加している。また、内容や学びを報告し、職員間での共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームへ訪問や電話での交流を図ったり、研修をとおしてのネットワークづくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接では必ず本人に会い、リラックスした雰囲気作りに心掛け、本人の思いや不安を聞き取り、受け止めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が何に困っているのか、何を求めているのか、本人との思いのずれなど傾聴する中で受け止めるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と相談のうえ、サービス開始の時期を調整している。また、交通の便なども考慮し他のサービス利用も対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に活動参加される利用者や得意分野を教えて下さる利用者、ともに学び支え合う関係作りに努めている。今後も個々の利用者への関わりを深め、支え合う関係作りに取り組みたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に、日頃のホームの様子を報告したり、変化があった場合は電話での報告、家族には現状を理解していただき、職員とともに利用者を支える支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームは施錠せず、気軽に来て頂けることを大切にしており、昔の同僚や近隣の方、友人の訪問と家族以外にもあり。また、自宅近くのスーパーや、行きつけの美容院に行くなど、馴染みの関係継続に努めている。	利用者の昔なじみの人や近隣の方の訪問や、馴染み店に出かける支援の継続に取り組んでいる。外出時は車椅子の利用者が多くなったが、馴染みの関係の継続を意識したケアを心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりのできること、得意なことを活かして、利用者同士が関わり合い、支え合う関係作りに努めている。また、レク活動を通して毎月1階と2階との交流する場を設けて取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、面会に行ったり、家族から電話連絡があったり、できる範囲の関係維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いの把握に努め、できるだけ柔軟に取り組んでいる。思いの表出が困難な方は、その言葉の真意は何かを職員で話し合い理解に努めている。一人ひとりと向き合う姿勢を今後も持ち続けていきたい。	職員は、利用者一人ひとりを良く知ることが大切であるとし、しっかり本人と向き合うことに努めている。言葉での表現が困難になってきた利用者には、本人が意思表示しやすい方法を理解し、職員間で共有し対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前も入居後もご本人、ご家族からの聞き取りを行い、生活歴や嗜好等の把握に取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録に残し、一日の流れの中で利用者の把握に努めている。また、できる力、分かる力の発見は職員への情報共有を図り、維持、向上に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の意向や希望、今できる機能を維持するための課題、職員からの気づきや意見を取り入れ介護計画を作成しており、毎月職員会議で議題にあげ、計画の見直しに取り組んでいる。	職員は利用者の日常の状況を観察し、毎月のサービス担当者会議で計画の評価を行い、また、3ヶ月に1回、計画を見直している。個別の課題を全職員で検討し、細かい内容を決め実施した。医療面は医師から細かく指示を受けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとの介護記録にケアプランを載せ、ケアを実施した結果やできる部分が増えたなどの気づき、計画の評価、見直しに活かせるよう、工夫して取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物、面会者の宿泊、家族が対応できない時の通院介助、希望者には散髪サービスなど、事業所のできる範囲で柔軟な対応に取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによるイベント以外に、利用者と一緒に消防、消火訓練に取り組んだり、地域資源との協働に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にホームの協力医の説明とともに、本人、家族の希望のかかりつけ医の確認を行っている。また、緊急でかかる場合の病院の確認も行い、本人、家族の希望を尊重して取り組んでいる。	入居時に、ホーム協力医の説明を行い、かかりつけ医師との係わり方の希望を把握している。緊急時の搬送希望病院等を確認し、入居後それに基づき対応している。希望病院へは原則家族が付き添うが、一部費用負担で同行する場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中看護師が在籍しており、介護職との情報交換や日頃より利用者の健康管理や状態変化の把握に努め、医療との連携に取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は早期、定期的に面会に伺い、家族、主治医、看護師との情報交換を行い、スムーズな退院支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態変化に伴い、本人、家族の意向を確認しながら主治医からの説明を受ける機会を設けている。また、ホームでできること、できないことを明確にし、家族、職員と話し合い、方針を固めている。	利用者、家族から緊急時の対応や搬送希望病院の確認の必要性を認識し職員間で検討、入居時に確認し、記録に残すことにした。長引く入院や、ホームでの医療対応はかかりつけ医師や家族と連絡を取り合いながら方針を確認し、決定している。	更には、重度化した場合の方針の説明が口頭によることが多いので、家族との確認事項を文書に残すことが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	予測できる急変に関しては、職員間で情報を共有しながら落ち着いて対応できるように取り組んでいるが、ありうる事故後の対応や状態変化時の対処など定期的な勉強会を今後増やすことを取り組み課題としたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て、通報訓練、消火訓練を行っているが、次回は迅速な避難誘導を課題とし、依頼している。また、出席できなかった職員への共有を今後の課題とする。	消防訓練は消防署の協力を得て、年に2回実施している。職員は消火器の配置の確認や使用法も習得している。避難誘導後の利用者の安全確保についての検討等を今後の課題としている。	運営推進会議において、地域役員等に消火訓練への参加や避難誘導後の利用者への手助け等協力依頼を提案し、検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議で尊厳を大切に言葉使いや対応について話し合う機会を積極的に設け、初心に戻る確認作業を行っている。また、プライバシーの確保について基本的なことや気付きも確認する機会を設けている。	利用者のその時の状況を理解するために、常に利用者から発信される声や表情、態度、行動等の情報を見のがさないようにし、聞き流さず、丁寧に対応することを忘れないよう職員会議等で意識付けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のしたい、したくないという思いや希望を尊重し、取り組んでいる。生活のいろいろな場面において自己決定できる場面作りに取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペース、その日の体調、したい、したくない思いに合わせたケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、家族の希望に沿った理容、美容に努めている。日々の生活の中でも身だしなみには気配りし、本人の心地よさ、本人らしさを大切にに取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりのできる力に応じて役割分担し、調理活動に取り組んでいる。また、食器洗浄やお盆拭きなど片づけにおいても役割を持ち、利用者同士が協力して取り組む場となっている。	利用者は、買い物と一緒に出かけたり、下ごしらえや後片付け等それぞれできる部分で積極的に参加しており、職員の見守りや声かけで自身の力を発揮している。代表が作った野菜も提供され、職員も利用者と同じ食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量の把握のほか、毎月の体重管理を行い、栄養状態をみる目安としている。また、本人の食べる力に応じて、キザミやミキサー、とろみなど食べやすいように取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力量に応じた口腔ケアを毎食後に行っている。歯科受診については、近くのかかりつけ医と連携を図っている。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表活用にて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ排泄、排泄動作の維持、一人ひとりに合わせたサポートに取り組んでいる。	排泄時間は日常のホームの生活パターンで確認し、その結果で、次回の誘導やケアのタイミングを決定し、職員間で情報の共有を図り、快適な排泄に向けての支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防のため、食材を考慮したり、内服が必要な方には日中に排便習慣がもてるように、内服時間を考慮し取り組んでいる。毎日の日課としての体操を今後の取り組み課題としたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望の時間や曜日、体調による変更に対応している。利用者に合わせて椅子の選択やマットの使用、要介助の方への安全な介助体制に取り組んでいる。	週3回を基本とし、1階と2階の職員の勤務時間帯を少しずらし、利用者のタイミングに合わせて柔軟に対応している。入浴拒否が有る場合も、利用者の気分に合わせてタイミングを図り入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠状況や体調を考慮し、夜間の睡眠の妨げにならないよう、一人ひとりに合わせた休息の支援に取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の飲み忘れや誤薬がないように、名前、用法、日付を記入し一つずつ確認の上、職員が配薬もしくは介助している。また、症状変化による服薬の判断は看護師、協力医との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの嗜好やこうしたいという意欲に合わせて、花の手入れをされる方、新聞たみをされる方、食器洗浄やお盆拭きや裁縫など生活の中での役割や楽しみごとへの支援に取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出する利用者が固定化しないように、近隣の喫茶店に行く支援を取り入れ取り組んでいる。散歩以外に買い物や外食、他のグループホームへの訪問などホーム内の生活に留まらないように、取り組んでいる。	外出時は車椅子が必要な利用者が増えてきているが、できるだけ誰にでも同じように外出の機会があるよう工夫している。季節の花見、喫茶店、食材の買出し、家族との1泊旅行も行っている。地域のグループホームとも利用者とともに交流している。	



岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望と力量、家族の意向に応じて、本人がお金を所持されたり、使えるように支援している。何回もなくなる方には家族との話し合いの上、財布とは別にホームで預かることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、家族の状況、希望に応じて対応している。不安などから電話をする回数が多い方には、事前に家族に説明し了解のもと、電話対応に取り組んでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は靴の混乱を避けるため、名前を付け、分かりやすくしている。トイレは一日2回と汚染時に掃除し、快適に使用できるように取り組んでいる。フローアは椅子以外にソファを配置し、くつろげる空間を作っている。	ホームは全体的にゆったりした空間がひろがり、玄関も靴箱に加え、多くの車椅子がおいてあるが、十分な広さがある。自然の採光と風通しがよく、家庭的な雰囲気も十分ある。利用者と共に育てている花が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓は利用者皆さんがテレビが見え、利用者同士の関係も考慮した席に努めている。食卓以外にも、ソファや廊下に椅子を配置するなど、一人になったり、職員や入居者同士と過ごせる工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みの制限はしておらず、逆にできるだけ本人の大切なもの、馴染みのものを持ってきていただけるように説明している。本人にとって少しでも安らげる空間作りに努めている。	家族にも馴染みの家具の持ち込みを依頼し、本人らしい部屋作りに努めている。搬入された家具も多く、それぞれにその人らしさがある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今ある機能を維持できるように、介助しすぎず適切なサポートに努めている。転倒リスクが高い方は、本人、家族と話し合いできるだけ安全な歩行手段を検討したり、見守りを多くしたり自立支援に取り組んでいる。		

(別紙4)

### 1 自己評価および外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170600486		
法人名	有限会社 百々		
事業所名	グループホーム百々(2F)		
所在地	岐阜県羽島郡岐南町上印食2丁目32		
自己評価作成日	平成21年5月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成21年6月17日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(2F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な雰囲気の中で心安らぐ毎日」という理念の下、利用者も職員も百々の家族として、地域密着の利用者本意のホームを目指し、日々取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々とは、散歩の挨拶や談話、野菜や果物の差し入れをいただいたり、日常的な交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、地域の独居の方への気軽なホームへの訪問、交流を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス状況の報告や情報交換で留まることが多い、改善課題を明確にしサービスの向上に、活かせる会議を今後の課題とする。また、出席者の検討、会議内容の共有も図っていききたい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の利用者の状況を報告したり、相談に乗って頂いたり、また町主催の勉強会には積極的に参加し、市町村との連携、協力関係に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行っているが、職員よりもう少し分かりやすくしてほしい、定期的に勉強会を行ってほしいと意見があり、今後の取り組み課題としたい。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行っているが、今後も定期的に行い理解、意識を深めたい。ホーム内では言葉使いも虐待につながることに重点を置き、職員全員で責任ある言動に取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会には出席しているも、職員全員の共有まではできておらず、今後の課題として取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ありのままのホームを見て頂き、説明、理解、納得の上で承諾を頂いている。契約後も不安や疑問点、要望などには説明、柔軟な対応に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置するとともに、利用者、家族との距離を置かず、気兼ねなく話せる関係作りに努めている。また、出された意見に職員で話し合い、前向きに改善に向けて取り組み、結果報告を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案はいつでも話せる機会はあるが、話し合いの場を設けてほしい、という意見があり改善に向けて取り組みたい。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得は奨励しており、働きやすい職場環境に努め、希望休日にも配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	専門的な知識を深めるために、順次研修に参加している。また、内容や学びを報告し、職員間での共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームへ訪問や電話での交流を図ったり、研修をとおしてのネットワークづくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接では必ず本人に会い、リラックスした雰囲気作りに心掛け、本人の思いや不安を聞き取り、受け止めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が何に困っているのか、何を求めているのか、本人との思いのずれなど傾聴する中で受け止めるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と相談のうえ、サービス開始の時期を調整している。また、交通の便なども考慮し他のサービス利用も対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に活動参加される利用者や得意分野を教えて下さる利用者、ともに学び支え合う関係作りに努めている。今後も個々の利用者への関わりを深め、支え合う関係作りに取り組みたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に、日頃のホームの様子を報告したり、変化があった場合は電話での報告、家族には現状を理解していただき、職員とともに利用者を支える支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に来て頂けることを大切にしており、昔の同僚や近隣の方、友人の訪問と、家族以外にもあり。また、手紙のやりとり、切手購入など、関係継続支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりのできること、得意なことを活かして、利用者同士が関わり合い、支え合う関係作りに努めている。また、レク活動を通して毎月1階と2階との交流する場を設けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、面会に行ったり、家族から電話連絡があったり、できる範囲の関係維持に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いの把握に努め、できるだけ柔軟に取り組んでいる。思いの表出が困難な方は、その言葉の真意は何かを職員で話し合い理解に努めている。一人ひとりと向き合う姿勢を今後も持ち続けていきたい。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前も入居後もご本人、ご家族からの聞き取りを行い、生活歴や嗜好等の把握に取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録に残し、一日の流れの中で利用者の把握に努めている。また、できる力、分かる力の発見は職員への情報共有を図り、維持、向上に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の意向や希望、今できる機能を維持するための課題、職員からの気づきや意見を取り入れ、毎月職員会議で議題にあげ、計画の見直しに取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアを実施した結果やできる部分が増えたなどの気づき、計画の評価、見直しに活かせるよう、工夫して取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物、面会者の宿泊、家族が対応できない時の通院介助、希望者には散髪サービスなど、事業所のできる範囲で柔軟な対応に取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによるイベント以外に、利用者と一緒に消火訓練に取り組んだり、買い物に出掛ける等、地域資源との協働に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にホームの協力医の説明とともに、本人、家族の希望のかかりつけ医の確認を行っている。また、緊急でかかる場合の病院の確認も行い、本人、家族の希望を尊重して取り組んでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中看護師が在籍しており、介護職との情報交換や日頃より利用者の健康管理や状態変化の把握に努め、医療との連携に取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は早期、定期的に面会に伺い、家族、主治医、看護師との情報交換を行い、スムーズな退院支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態変化に伴い、本人、家族の意向を確認しながら主治医からの説明を受ける機会を設けている。また、ホームでできること、できないことを明確にし、家族、職員と話し合い、方針を固めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	予測できる急変に関しては、職員間で情報を共有しながら落ち着いて対応できるように取り組んでいるが、ありうる事故後の対応や状態変化時の対処など定期的な勉強会を今後増やすことを取り組み課題としたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て、通報訓練、消火訓練を行っているが、次回は迅速な避難誘導を課題とし、依頼している。また、出席できなかった職員への共有を今後の課題とする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議で尊厳を大切に言葉使いや対応について話し合う機会を積極的に設け、初心に戻る確認作業を行っている。また、プライバシーの確保について基本的なことや気付きも確認する機会を設けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のしたい、したくないという思いや希望を尊重し、取り組んでいる。生活のいろいろな場面において自己決定できる場面作りに取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペース、その日の体調、したい、したくない思いに合わせたケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、家族の希望に沿った理容、美容に努めている。日々の生活の中でも身だしなみには気配りし、本人の心地よさ、本人らしさを大切にに取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりのできる力に応じて役割分担し、調理活動に取り組んでいる。また、食器洗浄やお盆拭きなど片づけにおいても役割を持ち、利用者同士が協力して取り組む場となっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量の把握のほか、毎月の体重管理を行い、栄養状態をみる目安としている。また、本人の食べる力に応じて、キザミやミキサー、とろみなど食べやすいように取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力量に応じた口腔ケアを毎食後に行っている。歯科受診については、近くのかかりつけ医と連携を図っている。		



岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表活用にて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ排泄、排泄動作の維持、一人ひとりに合わせたサポートに取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防のため、食材を考慮したり、内服が必要な方には日中に排便習慣がもてるように、内服時間を考慮し取り組んでいる。毎日の日課としての体操を今後の取り組み課題としたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望の時間や曜日、体調による変更に対応している。利用者に合わせた椅子の選択やマットの使用、要介助の方への安全な介助体制に取り組んでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠状況や体調を考慮し、夜間の睡眠の妨げにならないよう、一人ひとりに合わせた休息の支援に取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の飲み忘れや誤薬がないように、名前、用法、日付を記入し一つずつ確認の上、職員が配薬もしくは介助している。また、症状変化による服薬の判断は看護師、協力医との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの嗜好やこうしたいという意欲に合わせて、花の手入れをされる方、新聞たたみをされる方、食器洗淨やおぼん拭きや裁縫など生活の中での役割や楽しみごとへの支援に取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出する利用者が固定化しないように、近隣の喫茶店に行く支援を取り入れ取り組んでいる。散歩以外に買い物や外食、他のグループホームへの訪問などホーム内の生活に留まらないように、取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望と力量、家族の意向に応じて、本人がお金を所持されたり、使えるように支援している。何回もなくされる方には家族との話し合いの上、財布とは別にホームで預かることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、家族の状況、希望に応じて対応している。不安などから電話をする回数が多い方には、事前に家族に説明し了解のもと、電話対応に取り組んでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は靴の混乱を避けるため、名前を付け、分かりやすくしている。トイレは一日2回と汚染時に掃除し、快適に使用できるように取り組んでいる。フロアは椅子以外にソファを配置し、くつろげる空間を作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓は利用者皆さんがテレビが見え、利用者同士の関係も考慮した席に努めている。食卓以外にも、ソファや廊下に椅子を配置するなど、一人になったり、職員や入居者同士と過ごせる工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みの制限はしておらず、逆にできるだけ本人の大切なもの、馴染みのものを持ってきていただけるように説明している。本人にとって少しでも安らげる空間作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今ある機能を維持できるように、介助しすぎず適切なサポートに努めている。転倒リスクが高い方は、本人、家族と話し合いできるだけ安全な歩行手段を検討したり、見守りを多くしたり自立支援に取り組んでいる。		